

令和 6 年 6 月 11 日現在

機関番号：11601

研究種目：若手研究

研究期間：2021～2023

課題番号：21K13437

研究課題名（和文）1930 - 40年代においてメディアが社会運動のネットワーク化に果たした役割

研究課題名（英文）The Role of Media in Social Movement and Network from 1930s to 1940s

研究代表者

新藤 雄介（Shindo, Yusuke）

福島大学・行政政策学類・准教授

研究者番号：30773064

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,600,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究は、1930年代から40年代という戦中 - 戦後の時期において、メディアを通じた運動のネットワークがどのように形成され、運動が拡大していったのかを調査した。（Ⅰ）1930年代の社会運動雑誌である『農民闘争』を取り上げ、運動ネットワークの形成を検討した。次に、（Ⅱ）『農民闘争』挫折後の渋谷定輔の活動を取り上げ、運動からの離脱を捉えた。さらに、（Ⅲ）翼賛体制期における渋谷定輔について、翼賛活動への参加を明らかにした。最後に、（Ⅳ）『日本協同組合新聞』を調査し、戦後の運動再建におけるメディアと運動の関係を検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

（Ⅰ）『農民闘争』というメディアによる運動ネットワークの形成では、この雑誌が農民運動を束ねる機能を果たした。（Ⅱ）『農民闘争』挫折後の活動とメディアでは、渋谷定輔が運動から離脱しつつも、活字メディアで生計を立てようとしたことが明らかとなった。（Ⅲ）翼賛体制期における翼賛活動への参加では、渋谷定輔が大政翼賛会と密接に結び付き、温泉厚生運動を展開したことが明らかとなった。（Ⅳ）戦後の運動再建におけるメディア戦略と運動ネットワークの再構築では、物資配給や旧町会などの基盤が地域のネットワーク形成に関わったことが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：This study examined how movement networks were formed and expanded through the media during the postwar period from the 1930s to the 1940s. (I) The formation of the movement network was examined by focusing on "Peasant Struggle," a social movement magazine of the 1930s. Next, (II) the activities of Sadasuke Shibuya after the failure of "Peasants' Struggle" were taken up, and his departure from the movement was examined. Furthermore, (III) Sadasuke Shibuya's participation in the Tsubasa movement during the period of the Tsubasa regime was clarified. Finally, (IV) the relationship between the media and the movement in the postwar reconstruction of the movement was examined through a study of the "Nihon Kyodo Kumiai Shinbun" (Japan Cooperative Newspaper).

研究分野：メディア史、社会学

キーワード：『農民闘争』 渋谷定輔 大政翼賛会 温泉厚生運動 エゴ・ドキュメント メディア史 『日本協同組合新聞』 日本協同組合同盟

#### 1 . 研究開始当初の背景

1930 年代から 40 年代の社会運動とメディアの間には、密接な関係があった。その中で、雑誌における論争を通して、社会運動の思想や理論は極めて高度化していった。結果、その内容は一般の運動参加者にとって、理解困難となった。それゆえ、社会運動そのものに対しては、メディアがどのような働きをしていたのかが明らかとなっていない。そこで本研究では、1930-40 年代の社会運動とメディアの関係を調査・研究することとした。

#### 2 . 研究の目的

本研究では、1930 年代から 40 年代の社会運動とメディアの関係について、視点をこれまでの言論活動の内容ではなく、配付網の確立や支部の設立といったネットワーク化に移すことで、一般の運動参加者をどのように獲得し、運動を拡大させたのかを明らかにすることを目的とした。

#### 3 . 研究の方法

本研究では、1930 年代から 40 年代の社会運動とメディアの状況について、一般の運動参加者に視点を置き、メディアによる配付網や支部のネットワーク化と、その運動方法の転用による戦前 - 戦後の連続性を明らかにしようとするものである。そのために、次の ( ) 『農民闘争』における運動、( ) 『農民闘争』挫折後の渋谷定輔の活動とメディア、( ) 翼賛体制期における渋谷定輔による翼賛活動への参加、( ) 戦後の運動再建におけるメディアと運動ネットワーク、という着眼点に基づいて検討を進めた。

#### 4 . 研究成果

『農民闘争』では、たびたび発売禁止処分を受けていたこともあり、維持会員を募り経営を安定させるとともに、その会員を通して、各地の情勢や運動の経験、さらには運動の方法についてのレポートや原稿を集めた。加えて、支局の設立を行い、この支局を通して雑誌の配布網の確立を目指したことが明らかとなった。

渋谷定輔については、富士見市立中央図書館の渋谷定輔文庫の資料を活用し、調査・研究を行った。この『農民闘争』は 1930 年 3 月に創刊し、1932 年 5 月に終刊となった。創刊から関わった農民運動家の渋谷定輔は、1934 年に社会運動に対する取り締まりの激化もあり、運動の第一線からは退いた状態にあった。そうした中で、9 月に妻であり運動の同志であった渋谷黎子を亡くし、失意の底に沈んだ。渋谷は悲しみに暮れる一方、自らの今後と向き合うことになった。その時、渋谷が出した 1 つの方向性が芸術家、とりわけ農民作家として生きていくことであった。他の農民作家に対して渋谷が持っていた優位性とは、実際に農民であったという事実であり、その上で農民運動に携わってきたという経験であった。渋谷は無知な農民の生活にも、実際運動にも戻る気持ちはなかった。その末に渋谷が自覚したのは、かつて自らが批判したプチブル的生活をこそ、求めていることであった。結局、渋谷は今後の身の振り方について決めかねたまま、1935 年の 4 月となったことが明らかとなった。

その後、渋谷は 4 年間の服役を経て、1941 年に出所する。出所後には、渋谷が大政翼賛会と極めて密接な関係を築き、日本温泉厚生協会を設立し、温泉厚生運動を展開しようと奔走する様子が記録されていたことが、渋谷の残した日記から明らかとなった。渋谷が目指したのは、自分の運命と国家の運命を重ね合わせ、一体化する思考であった。加えて、渋谷は温泉厚生協会の設立を目指す仲間に対して、過去に左翼農民運動に身を投じ、4 年の服役をしていたことを伝えていなかった。渋谷は自身の過去を切り離すことで、この新たな運動に献身していたことが明らかとなった。

また、大政翼賛会の文化運動に関しては、鶴岡市郷土資料館に収蔵されている鶴岡市文化協会関係の簿冊を調査し、その具体的な活動内容も明らかにした。これにより、文化協会そのものに活動の主体性はなかったが、それは統制が厳しかったというより、地域の人にあまり関わる気持ちがなかったように見受けられた。また、文化協会と既存の組織の関係について、活動の基本は、既存の組織が既存の活動を行っただけでもいえる状況だったことや、活動自体は展覧会と講演会が比較的自主的に行われたこと、1944 年秋から「翼賛運動報道資料」の活用や疎開児童対応など、従来の文化活動からズレるものにも対応させられるようになったことが明らかとなった。

戦後については、『日本協同組合新聞』を中心に調査を行った。戦後の復興にあたって、協同組合は物資配給や町会の廃止に伴い、その消費生活協同組合法の成立によって、地域のネットワーク形成に関わったことを確認することができた。また、運動方針として、学生の組織化や婦人組織との連携、さらに各種協同組合との連携が目指される一方で、財政難のために機関紙の読者を

増加させるための運動が展開されたことが明らかとなった。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 新藤雄介	4. 巻 52号
2. 論文標題 戸坂潤『技術の哲学』が囁くメディア史 透明化したメディアを可視化する方法	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 メディア史研究	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新藤雄介	4. 巻 54号
2. 論文標題 書評大尾侑子『地下出版のメディア史 エロ・グロ、珍書屋、教養主義』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 メディア史研究	6. 最初と最後の頁 205-219
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新藤雄介	4. 巻 36巻2号
2. 論文標題 農民運動家における挫折と翼賛体制 渋谷定輔にとっての運動の経験	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 行政社会論集	6. 最初と最後の頁 25-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 新藤雄介	4. 巻 55号
2. 論文標題 一九三〇年代における図書館と地域の諸相 都市型独立館と小学校付設簡易図書館	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 メディア史研究	6. 最初と最後の頁 23-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 1件／うち国際学会 0件）

1．発表者名 新藤雄介
2．発表標題 （元）農民運動家と翼賛会の握手 戦時下の社会運動の位相
3．学会等名 第2期第15回史料データセッション研究会
4．発表年 2022年

1．発表者名 新藤雄介
2．発表標題 末端の社会運動家の弁明 治安維持法違反並出版法違反の取り調べ記録
3．学会等名 第2期第19回史料データセッション研究会
4．発表年 2023年

1．発表者名 新藤雄介
2．発表標題 大尾侑子著『地下出版のメディア史 エロ・グロ、珍書屋、教養主義』（慶應義塾大学出版会、2022年）書評会
3．学会等名 日本メディア学会第38期第26回研究会（メディア文化研究部会）
4．発表年 2023年

1．発表者名 新藤雄介
2．発表標題 「戸坂潤をメディア史から再読する」
3．学会等名 史料データセッション研究会（第2期）
4．発表年 2021年

1．発表者名 新藤雄介
2．発表標題 「農民運動家が運動から離れる時」
3．学会等名 史料データセッション研究会（第2期）
4．発表年 2022年

1．発表者名 新藤雄介
2．発表標題 1930年代における図書館と地域の諸相      都市型独立館と小学校付設簡易図書館
3．学会等名 メディア史研究会2023年度研究集会（招待講演）
4．発表年 2023年

1．発表者名 新藤雄介
2．発表標題 蓑田胸喜の戸惑い      昭和研究会への批判と否定しがたさ
3．学会等名 第2期第27回史料データセッション研究会
4．発表年 2023年

〔図書〕    計2件

1．著者名 新藤雄介	4．発行年 2024年
2．出版社 人文書院	5．総ページ数 400
3．書名 『読書装置と知のメディア史      近代の書物の実践』	

1．著者名 復刻版	4．発行年 2022年
2．出版社 不二出版	5．総ページ数 452
3．書名 『何を読むべきか 第一巻』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------